



開館時間 平日・土：9:30～18:00
日・祝日：9:30～17:00

休館日 毎週木曜、毎月第4金曜日、
年末年始

問い合わせ 宇土市立図書館 ☎(22)4512



幼児向け

チーターどっちいったー？

大塚 健太 / 作
かのう かりん / 絵
パイインターナショナル



お弁当を奪われたキツネは、犯人のチーターをさがしにいきます。ところが、見つけたのはチーターによく似たヒョウやジャガー。ようやく会えたチーターは、盗んでいないと言い…。ネコ科の動物のちがいわかるユーモア絵本。

中高生向け

学校を休んだ日は本をひらいて

清 繭子 / 著
主婦と生活社



小説家・金原ひとみ、現役医学生・ぎん太、芸人・山田ルイ53世…。不登校や学校が苦手だった経験がありながらも、今は自分らしく人生を歩んでいる著名人が、当時の思いを伝えるとともに支えとなった本を紹介する。

小学生低学年向け

トマトパスタがはねるなぞをとけ

かんちく たかこ / 文
北村 みなみ / 絵
今野 柚希 / 原案
講談社



トマトパスタは大好きだけれど、思いっきり食べるとソースが服にはねちゃう。どうしたら、はねないかな？ オリジナリティあふれる疑問、実験、観察が表現された「科学の芽」受賞作品を絵本化。

一般向け

頭を木魚に

笑い飯 哲夫 / 著
主婦の友社



会社の上下関係、煩わしい人間関係を避けるため、タクシー運転手という職業を選んだ男。しかし、会社の方針という名の欺瞞の犠牲となり、身に覚えのない濡れ衣を着せられ…。漫才コンビ、笑い飯の哲夫による長編小説。

小学生高学年向け

おいしくって、おもしろい！
はじめてキッチン

榎本 美沙 / 著
Gakken



季節の行事や食べ物について紹介するとともに、その季節に作ってみたいくなるレシピをこどもがひとりで調理できるよう丁寧に解説する。自由研究にぴったりの保存食のレシピも掲載。

一般向け

動物には何が見え、聞こえ、感じられるのか
人間には感知できない驚異の環世界

エド・ヨン / 著
久保 尚子 / 訳
柏書房



動物たちの感覚とは一体どのようなものか。人間より優れているのか。五感を動物ごとに人間と比べてその違いを解明。電気や磁気といった人間には全く感じられない感覚についても解説する。

夏休み期間は木曜日も開館しています！

8月のカレンダー

小中学校の夏休み期間は、第4金曜日を除き毎日開館しています。1階の郷土資料室も学習室として開放しますので、ぜひ夏休みの調べものや学習にご利用ください。

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11 山の日	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28 休	29
30	31					

おはなし会のご案内

こどものおはなし会 〈30分程度〉

対象：幼児・小学生
日時：水曜日 午後4時～／土曜日 午後2時～

0.1.2歳のおはなし会 〈20分程度〉

対象：0・1・2歳児
日時：第4火曜日 午前10時30分～

場所：宇土市立図書館 1階児童室
内容：絵本や紙芝居の読み聞かせ、
パネルシアター、手遊びなど

※予約・参加費は要りません
※都合により変更や中止になる場合があります



寛政津波被害之図
(抜粋、一部追記)
宇土郡周辺の被害範囲図
黄色部分が主な被災範囲

令和8年3月24日、宇土市戸口町にある供養塔が、新たに熊本県の文化財に指定されました。指定名称は「寛政津波供養塔（一郡一基の塔）」。江戸時代の寛政年間に起きた津波災害の犠牲者を供養するために建てられたものです。

その津波災害とは、寛政四（一七九二年）、島原半島の雲仙普賢岳の噴火と火山性地震が引き金となつて起きた津波のことです。相次ぐ地震と噴火により前山（現在の眉山）が崩落し、大量の土砂が有明海に流れ込んだことで津波が発生し、対岸の熊本藩領（現在の熊本県側）で広範囲にわたる被害がありました。こうした経緯から「島原大變肥後迷惑」という言葉で語り伝えられています。

津波により、各郡で千人単位の死者が出たとされ、宇土郡でも千二百人あまりが犠牲になりました。有明海に面した宇土郡 飽田郡・玉名郡は特に被害が大きく、その犠牲者を供養するため、各郡に同様の供養塔が建立されました。それらは「一郡一基の塔」とも呼ばれ、宇土市戸口町の供養塔は、そのうちの一基、宇土郡の供養塔です。

飽田郡のものは現在の熊本市西区小島に、玉名郡のものは玉名市岱明町扇崎にそれぞれ存在し、県の文化財指定は、これら三基を一括で価値ある文化財として指定するものです。

寛政の津波に関する供養塔や教訓碑は数多く存在しますが、この「一郡一基の塔」の特異な点は、同じ供養塔が複数建てられたこと、それらが藩の主導で行われたことです。

三基の供養塔にはほぼ同じ銘文が刻まれており、犠牲者の人数に関する記述だけ、各郡の実態に合わせて表現を変えています。銘文の文案は、津波から約四か月後に、熊本藩庁から熊本城下の延寿寺に作成が命じられたものの、



扇崎（玉名郡）



小島（飽田郡）



戸口浦（宇土郡）

県指定文化財「寛政津波供養塔」

その後何らかの理由で、玉名郡廣村（現在の山鹿市）の善行寺に依頼され、弁立という僧侶がこれを起草したようです。そうして同じ文案を基に銘文が刻まれましたが、三基は文字の太さや漢字と仮名の使い分けなどに違いがみられる点から、石材への彫刻作業は、各地域の石工が別々に担ったものと考えられます。

津波の経緯、死者数、生存者たちの悲惨な状況、そして供養塔建立に至る経緯がつづられた銘文の末尾は「死者もし知ることあらば、千年の後までも死して朽ちずと思うなるべし」という言葉で締めくくられます。そこからは、死者への慰めと生者への教訓が、文字どおり千年続くことを願った、先人たちの切実な願いが感じられます。

銘全文文

（左側面）

ことし寛政四年壬子正月より
肥前の国温泉の嶽けふり（煙）立ち、
炎火日に月に熾にして、おなじき四月
一日の夜山くずれて海に入り、うしほ
（潮）わきあふれて我國飽田宇土玉名三
郡の浦々に及び良民溺れ死するもの宇
土郡に千二百余人、飽田玉名をあハセ
て四千数百

（背面）

人、たまたま活のこりたるも父母をう
しなひ、或いは老たるが子むすこにお
くれて泣きまよふあはれというもさら
なり、かかる事ハふるき史にもまれな
ることになん、夫民ハ國の本なり、さ
ておなじき六月に官より僧に命じて追
福の事を修せしめ、その九月に

（右側面）

一郡に一基の塔を建られ、死者の名を
録してここに納め幽魂を鎮ましむ、
死者もししることあらば千年の後ま
でも死して朽ちずとおもふなるべし

※一部の漢字をひらがなに変え、改行位置
の変更と読点の追記をするなど、実際の
銘文から一部を改変しています。

【参考文献】

・『新宇土市史（通史編第二巻）』
丸山大輝二〇二六「一郡一基の塔（寛政の
津波供養塔）の建立過程」『熊本県博物館
ネットワーク紀要 熊本県の自然と文化』
第六号